

今回の「譲歩・否定」は「両方・ひでえ」っていう受験生が多い単元だね。でも出題のポイントが明確なので、かえって一気に成果を挙げられるオイシイ分野だ。とりあえずサクサク進もう。反復するうちに定着するよ。

譲歩表現

1. 複合関係詞 (-ever) を用いた譲歩表現

1. 複合関係代名詞 (-ever の付いた関係代名詞)

複合関係詞は先行詞の中に含んだ関係詞なので、{ } の付け方は「7章 関係詞」の「例題 10」に従う。それから表中の太字部分で ① ② の区別をしっかりとつけることが重要だよ。書き換え&和訳に差が出るからね。

	① 名詞節を導く場合	② '譲歩' を表す副詞節を導く場合
	{ } 全体でS・C・Oの働きをするから { } の部分を消すと文は成立しない	副詞節 = 修飾語の節だから { } の部分を消しても文は成立する
whoever	…する人は誰でも	誰が…しても
whichever	…するものはどれでも …するものはどちらでも	どれが [を;に] …しても どちらが [を;に] …しても
whatever	…するものは何でも	何が [を;に] …しても
	'any ~ + 関係代名詞' で書き換え可能	'no matter wh-' で書き換え可能 節中に may を使うことがあるが文語的

理屈の理解

◆ ① の例

{ Whoever wants a ticket for tonight's concert } must come to the box office at 5 p.m.
 S V O

節全体 ({ } 全体) の働き = must come の主語

↓

つまり名詞節だから ①

↓

「今夜のコンサートのチケットが欲しい人は誰でも午後5時にチケット売り場に来なくてはならない。」

= *Anyone who* wants a ticket for tonight's concert must come to the box office at 5 p.m.

↓
 節の内部 ({ } の内側) での whoever の働き = wants の主語

↓

だから主格の whoever !

補足 目的格なら *whomever* を使うのが原則だが、口語では主格でも目的格でも *whoever* を使う。

◆ ② の例

{ Whoever telephones }, tell him I'm out.
 S V

節全体 ({ } 全体) の働き = 副詞節 (なぜなら { } 部分を消去しても tell him I'm out は命令文として成立)

↓

したがって ②

↓

「誰が電話をかけてきても、留守だと言ってくれ。」

No matter who telephones, tell him I'm out.

↓
 節の内部 ({ } の内側) での whoever の働き = telephones の主語

↓

だから主格の whoever !

どうだい? '-ever' も関係詞である以上, { } の外側での働きと内側での働きの両方の面があるんだね。そこで…

Point 1

複合関係代名詞は

- ①「格」を決める時は { } の内側,
- ②「訳」や「書き換えパターン」を決める時は { } 全体の働きに注目すればいい。

補足

whichever と whatever は { } 内で名詞にかかって形容詞的な働きをすることがある。

Ex. You can have {whichever book you like}.



「あなたが好きななどの【どちらの】本でもあげるよ。」⇒「どれ【どちら】でも好きな本をあげるよ。」

2. 複合関係副詞 (-ever の付いた関係副詞)

複合関係代名詞と違って、あまり理屈をこねなくてもいい。どんな場合でも副詞節を導くからね。ポイントは文脈によって意味が異なることだ。

	①	② ‘譲歩’ を表す副詞節
wherever ...	…する場所ならばどこ (へ) でも	どこで (へ) …しようとも
whenever ...	…する時はいつでも	いつ…しようとも
however + { 形容詞 } + S + V ...	/	
however + S + V ...	(…するどんなやり方ででも)	どんなやり方で…しようとも
	any を用いて書き換え可	‘no matter wh-’ で書き換え可

◆ ① の例

On holidays we can get up whenever we want to. (休日には好きな時に起きられる。)
 (= at any time when we want to)

◆ ② の例

I'm ready whenever you (may) come. (いつ来て下さっても準備はできております。)
 (= no matter when you (may) come)

❗ however は直後に形容詞・副詞を伴うので、語順には要注意。

Ex. However tired she is, she always smiles at customers.

(×) However she is tired, ...

(どんなに疲れていても彼女はいつもお客さんに微笑みかける。)

ただし表中最後の欄のように「どんなやり方で…しようとも」の意味の時は単独で用いる。

Ex. However you do it, the result is the same. (どんなやり方でやろうとも結果は同じだ。)

2. 「重要譲歩表現シャワー」

❗ 印のポイントに注意しながらサクサク進もう。知っているものは消す、知らないものだけ残す、そして反復する、これが王道。例文中の〔 〕は直前の斜体字部分の代わりに使えるという意味だよ。

1. 接続詞・前置詞を用いた譲歩表現

□ *Though* [*Although*] I went on a diet, I didn't lose weight at all.
(食事制限をしたけれど、全然体重が減らなかった。)

❗ even though にすると強調形になる。ちなみに even although とは言わない。

□ A person can be sad *even if* he is loved by many people.
(人というのは、たとえ多くの人に愛されていても、淋しくなることがある。)

□ *Whether* you like it or not, you have to go.
(気に入ろうと気に入らなからうと、おまえは行かなければならないよ。)

❗ whether A or B で「A であろうと B であろうと」の意。上例では you don't like it の代表としての not が B にきている。

補足 whether A or B が名詞節になることもある。

Ex. *Whether* you like it or not doesn't matter to me.

S V

(君がそれを気に入るかどうかは私にはどうでもいいことだ。)

whether が導くカタマリは doesn't matter の主語になる名詞節。

□ *Wealthy as he is*, he is not satisfied. (裕福ではあるが彼は満たされていない。)

❗ '形容詞(副詞) + as + S + V' で「…だけれども」の意味を表す。

□ ① *In spite of*
② *With all*
③ *For all*
④ *Despite* } his wealth, he is not satisfied. (裕福ではあるが彼は満たされていない。)

❗ いずれも「～にもかかわらず」の意味の前置詞的イディオム。前置詞ゆえ後ろには名詞のカタマリがくる。

2. 関連語句を用いた譲歩表現

□ *It is true (that) your plan is wonderful, but it can't be carried out.*

(なるほど君のプランは素晴らしいが実行不可能だ。)

❗ 「なるほど…だが」といった相手の言い分を認めておいて、「しかし…」と後半で自分のイイタイコトを主張する。**but 以下に筆者の主張がくる**という意味で、読解上極めて重要な関連語句。

類例：indeed [truly ; certainly]
to be sure [no doubt ; of course] } ~, but [yet] ...
S may

Ex. Indeed he is young, but he is wise for his age.

(なるほど彼は若いですが、年のわりには判断力がある。)

You are right, to be sure, but I can't accept it.

(確かに君の言うことは正しいが、それを受け入れるわけにはいかない。)

My story may sound strange, but it is true.

(私の話は奇妙に聞こえるかもしれないが、本当です。)

否定表現

1. 否定の「ヒッカケ」——どこまでかかる？

例題 1

次の各文を和訳せよ。

- (1) You cannot eat your cake and have it.
- (2) You should not despise a man because he is fat.

解答欄

- (1) -----
- (2) -----

解説

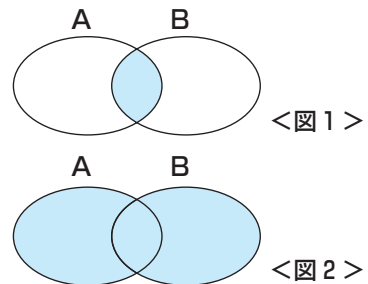
(1) ことわざ的なのでちょっと考えにくかったかも…。①「あなたはケーキを食べられないから持っている。」とか、②「あなたはケーキを食べられないし持つこともできない。」とかいう訳は誤り。「**ケーキを食べてしまってなおかつ持っているということとはできない。**」(⇨ 両手に花というわけにはいかないよ。)が正解だ。なぜそうなるか？まず問題文は…

You cannot [eat your cake and have it]. ⇨ not は [] 全体にかかる

という構造なんだ。①の訳だと not が and の前までしかかかっていないよね。だからダメ。では、②はなぜだめなのか？

ここで eat your cake = A, have it = B と置いてみると、問題文の not [A and B] というのは<図1>の色付き部分を否定する。

ところが、②の訳は A, B の両方を否定しているから、<図2>の色付き部分を否定することになってしまう。これで②訳が誤りの理由がわかったね。(さらに<図2>から考えると②訳を表す英文にするには not [A or B] とすればいいことまでわかってしまう。)



(2) これは定番の例文の一部改作。「**太っているからといって、人を軽蔑してはいけない。**」が正解。構造は(1)と同じように…

You should not [despise a man because he is fat]. ⇨ not は [] 全体にかかる

したがって「[太っているからという理由で軽蔑する]ということをすべきではない」という意味の取り方になる。これを日本語として整えてさっきの正解訳になるわけだ。

補足 'not ~ because ...' は常に「...だからといって～ない」になるとは言い切れない。例えば次の文は ①, ② 両方とも可能性がある。

She does not marry Bob because he is rich.

① 彼女は [ボブが金持ちだからという理由で結婚する] のではない。(結婚理由は他にある)

② ボブが金持ちなので、彼女はボブとは結婚しない。

(金持ちってお高くとまっているしワタシ疲れちゃって嫌いな... *etc.* の理由で)

① の方は She does not [marry Bob because he is rich]. という構造分析。対して ② は She does not marry Bob / because he is rich. というふうに because の前で断絶がある。

問題は ①, ② の識別をどうするか? だ。よく参考書なんかには ② の構造 (= because の前で切れる) になる場合は because の前にコンマがあるって書いてあるけれどそれはウソ。コンマがなくても ② の構造でとらなければおかしいケースなんて山ほどある。あくまでも文脈で決定するしかない。(ただしコンマが付いていたなら ① の構造にはならない, というのは正しい。)

Point 2

① not A and B は not [A and B] というかきり方 ⇨ 「[A でありかつ B] というのではない」

「[A して B] というのではない」

② not A or B は 「A でもないし B でもない」

2. 否定の「ヒッカケ」——否定のかくれんぼ！

肯定と否定とではまるっきり意味が逆になるわけだから、取り違えると命取り！その意味で「表面に否定語がないのに意味が否定」という‘隠れ否定表現’は重要だ。例文で見ていこう。

□ Hiro is *the last man to tell a lie*. (ヒロは決して嘘をつくような人ではない。)

❗ ‘the last ~ to 不定詞’で「最も…しそうな～；決して…するような～ではない」の意味。例文で考えると、最も嘘をつきそうな人間から順に並べていったら、すべての人間が並んだ一番最後にヒロがいるっていうニュアンス。だから嘘をつくことから最も遠いって感じだね。

補足 to 不定詞の代わりに関係詞節を使ってもいい。

cf. Hiro is the last man *that would tell a lie*.

□ The work is *anything but [far from (being)] easy*. (その仕事は決して容易ではない。)

❗ ‘anything but ~ (=名詞・形容詞) ≡ ‘far from (being) ~ (=名詞・形容詞)’で「決して～ない」。anything は「どんなものでも」、but は「～以外」の意味で、足し算すれば「～以外だったらこの世の何であってもいい」⇒「～とだけは言ってくれるな」ということで‘強い否定’を表す。far from ~ は「～からほど遠い」だからわかりやすいね。

□ He *failed to come* because of illness. (病気のため彼は来られなかった。)

❗ ‘fail to 不定詞’は「(期待されていたこと、必要なことを) …しない【できない】」の意味。「…するのに失敗する」と訳すと意味がずれる場合が多い。「…するのに失敗する」は fail in …ing。

3. 部分否定 VS 全体否定

‘部分否定’ と言うと嫌がる人が多いけれど、意外にあっさり片づくよ。

Point 3

- ① 部分否定 = not + 「完全無欠イメージの語」
- ② 部分否定の和訳：「not を取り外した文の訳 + 『というわけではない』」

上の2点を押さえるだけで十分。例えば The poor are *not always* unhappy. (貧しい人々が必ずしも不幸であるとは限らない。) だって not always = 「必ずしも…ない」というふうに固定化して結び付けてしまうから応用がきかないんだ。Point 3 に従って2段階に分けて考えると…

- ① always は「例外なく常に」という頻度 100%を表す「完全無欠イメージの語」。したがってこれが not とコンビを組むと‘部分否定’になる。
- ② ‘部分否定’ だと決まってしまうえば和訳はいつもワンパターン。not を取り外した文 = 「貧しい人々は常に不幸だ」の後ろに「ということはない」を付ければいいだけだ。つまり「貧しい人々が常に不幸だというわけではない。」となる。これで十分！「必ずしも…とは限らない」という言い回しにこだわる必要なんかない。だってワンパターンの方が間違えにくいでしょ？以下、部分否定の代表例を挙げておくから確認しておいて。

部分否定 = not +

完全無欠イメージの語

- ① all
- ② every + 名詞
- ③ both
- ④ necessarily
- ⑤ quite
- ⑥ entirely

- ① 「すべて…というわけではない」
- ② 「あらゆる名詞…というわけではない」
- ③ 「両方とも…というわけではない」
- ④ 「必ず…というわけではない」
- ⑤ 「完全に…というわけではない」
- ⑥ 「完全に…というわけではない」

このように丸暗記でなく理解しておけば not completely や not fully なんていうのが出てきたって「オッ、部分否定じゃん」とわかるはず。

というわけで‘部分否定’それ自体はそんなにややこしくない。むしろそれぞれの部分否定に対応する‘全体否定’の方が盲点になっている場合が多い。そこで表で整理しておこう。

	部分否定	全体否定
二者	not + both (両方とも…というわけではない)	not + either / neither (どちらも…ない)
三者以上	not + all not + every 名詞 (すべて…というわけではない)	not + any / none / no + 名詞 など (どれも…ない; 1つも…ない)

- ① I don't know *both* of them. (彼らを両方とも知っているわけではない。) <部分否定>
 I don't know *either* of them. } (彼らのどちらも知らない。) <全体否定>
 I know *neither* of them. }
- ② I don't know *all* of them. (彼らの全員を知っているわけではない。) <部分否定>
 I don't know *any* of them. } (彼らのうち誰も知らない。) <全体否定>
 I know *none* of them. }

補足 'either ~ not ...', 'any ~ not ...' のように **either, any** が **not** より前にくることはできない。

Ex. 「何も起こらなかった。」⇒ (×) *Anything didn't* happen.

(○) *Nothing* happened.

4. 準否定

1. few と little

	ほとんどない	少しはある	少なからぬ；かなり多く
可算名詞に付ける	① few	② a few	③ not a few / quite a few
不可算名詞に付ける	① little	② a little	③ not a little / quite a little

❗ quite (まったく；かなり) + a few [a little] (少し) だから「(×) かなり少し」なんだな、なんてやると大間違い！「ほんの少し」と言う場合は、only a few [a little]；very few [little] を使う。ヒツカケ問題頻出だからしっかり暗記！

- ① She has *few* friends. (彼女には友達がほとんどいない。)
- ② She has *a few* friends. (彼女には友達が少しはある。)
- ③ She has *quite a few* friends. (彼女には友達がかなりたくさんいる。)

2. 'hardly ≐ scarcely' vs. 'seldom ≐ rarely'

Point 4

- ① *hardly* ≐ *scarcely* (ほとんど…ない) は '程度' の話 ⇒ *not* の一歩手前と考えよ。
- ② *seldom* ≐ *rarely* (めったに…ない) は '頻度' の話 ⇒ *never* の一歩手前と考えよ。

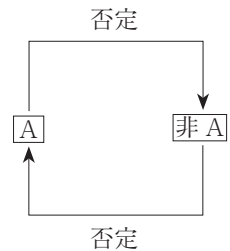
日本語の言いまわしに振り回されてワケがわからなくなってしまうのが *hardly* / *scarcely* の用法だ。上の **Point 4** の識別を次の例文に当てはめて理解してね。

- ① I can *scarcely* hear him. (彼の言うことがほとんど聞こえない。)
- I *hardly* knew him. (私はほとんど彼を知らなかった。)
- ② He *seldom* comes to see me. (彼はめったに遊びに来ない。)

❗ *hardly* / *scarcely* / *seldom* / *rarely* はいずれも副詞であって助動詞ではないから、三単現の -s には影響を及ぼさない。また仮に「彼はほとんど遊びに来ない。」という日本語の言い回しであっても、結局 '頻度' の話なのだから (×) He *hardly* comes to see me. は不可。正しくは、He *seldom* comes to see me. である。

5. 二重否定

A の否定の否定は？右図のように結局 A に戻っちゃうね。これが‘二重否定’の基本！というのはよくご存じでしょ。ただ次の2通りあるっていうことは盲点になりやすい。



①「強い肯定」を表す（←「否定」を否定してはね返したのだから）

Ex. They *never* meet *without* quarreling.

（彼らはけんかしないで会うということは1度もない。⇒彼らは会うと必ずけんかする。）

❗ without は「～なしに」の意味だから、否定語だよ。

②「控えめな肯定」を表す（←ストレートに言えなかったので「～でないこともない」と婉曲に言う）

Ex. He is *not unkind*. (彼は別に不親切な人ではない。)

❗ un- は形容詞，名詞，副詞などの前に付けて「…でない」と否定の意味にする接頭辞。もちろん否定の目印だよ。長文の中で出てくることが多いから，要チェックだ。

それでは，ここでひと休みしてから，次の練習問題に進もう。

練習問題 

指示に従って設問に答えよ。

A 各文の空所に入れるのに最も適当なものをそれぞれ次の中から1つずつ選び、記号で答えよ。

- 1) I will carry out the project, () you are for or against it.
 a if b unless c whether d though
- 2) () his every effort, he couldn't attain the goal.
 a Thanks to b In spite of c Instead of d Although
- 3) I'll give you () CD you want to listen to.
 a no matter which b whenever c whatever d whose
- 4) Skiers are afraid there will be () snow in ski resorts this year.
 a a few b few c a little d little
- 5) I () understood what the teacher said during the class.
 a didn't b scarcely c not always d few

B 日本文の意味を表すように、各文の空所に入れるのに最も適当な語を1語ずつ記せ。

- 6) No () () hard you try to persuade her, she will not accept the offer.
 (どんなに熱心に彼女を説得しようとしても、彼女はその申し出を受けないだろう。)
 () ()
- 7) We should () respect a person just () he is a successful man.
 (ある人が成功した人だからといって、それだけでその人を尊敬すべきではない。)
 () ; ()
- 8) () boxer () win, it doesn't make any difference to me.
 (どっちのボクサーが勝っても、僕にはどうでもいい。)
 () ; ()
- 9) I () go to my hometown () seeing my fellows from school.
 (私は故郷を訪れると必ず同窓仲間に会う。)
 () ; ()

解答

A 1) c 2) b 3) c 4) d 5) b

B 6) matter how 7) not ; because 8) Whichever ; may 9) never [cannot] ; without

解説

A 1) 「あなたはその計画に賛成であれ反対であれ、私はそれを実行するつもりだ。」従属節の中に or があることに注意。whether A or B (A であろうと B であろうと) の形で ‘譲歩’ を表すので、c の接続詞 whether が最適。よって正解は c。 [p.91 参照]

2) 「あらゆる努力にもかかわらず、彼は目標を達成することができなかった。」文意の通るものをまずは考える。a 「～のおかげで」、b 「～にもかかわらず」、c 「～の代わりに」、d 「～にもかかわらず」。b か d が候補となるが、空所以下が S + V の形をとっていないので、接続詞の although は不可。したがって、正解は b。 [p.91 参照]

3) 「君が聴きたいと思う CD ならどれでもあげるよ。」空所以下が、名詞 + S + V になっていることに注意。また、空所以下は give + O₁ + O₂ の O₂ の働きをする節になるので、名詞節を作る語を選ぶ。a は「どちらの…であっても」という副詞節を導くので不可。b は名詞を修飾できないので不可。d は先行詞がないので不可。名詞 (CD) を修飾する形容詞の働きをし、さらにその修飾した名詞が listen to の目的語となり、名詞節も作れる語は、whatever … (どんな…でも) である。これは関係形容詞 what の強意形と考えることができる。cf. what books I have (私が持っているすべての本) したがって、正解は c。 [p.88 参照]

4) 「スキーヤーたちは、今年はスキー場に雪がほとんどないのではないかと心配している。」few は可算名詞に、little は不可算名詞に用い、共に冠詞 a のあるなしで肯定か否定かが決まる。ここでは、are afraid という表現から、‘否定’ を意味する語を選ばなければならないので、a の付かない b か d が候補になる。snow は rain や water 同様、数えられない名詞であることに注意。したがって、正解は d。 [p.98 参照]

5) 「私は授業中に先生が言ったことをほとんど理解できなかった。」understood と過去形になっていることに注意して、understood を修飾する語を選ぶと、「ほとんど…ない」を意味する scarcely しかない。これは副詞なので、動詞の形は影響されないのもポイント。few は動詞を修飾しないので d は不可。c は「いつも…というわけではない」と‘部分否定’を表すが、understood を否定するなら、did not always understand となるはず。したがって、正解は b。 [p.98 参照]

B 6) 空所の直後に副詞の hard がきているので、この副詞を修飾できる語を考える。文頭の No に注目。‘no matter how + 形容詞【副詞】 + S + V’ (どんなに…であっても) を用いる。したがって、matter how が正解。 [p.90 参照]

7) 「…だから」という‘理由’の言い回しがあるので、接続詞は because、そして「…すべきではない」から‘否定’の not が必要であることに気づくだろう。‘not ~ because …’ は、「…だからといって～ない」の意。この because … の節は前の動詞 (respect) を修飾し、その全体を not が否定している。したがって、not と because が正解。 [p.93 参照]

8) 直後の名詞を修飾する形容詞の働きをして‘譲歩’を表す節を導く語は whatever と whichever で、前者は選択するものがあらかじめ決まっていない場合に、後者は選択するものが決まっている場合に用いる。ここでは「どっちの」という表現から、選択するボクサーがいることがわかるので、whichever を用いる。また、‘譲歩’の副詞節の中に may が用いられることがあることも覚えておこう。したがって、Whichever と may が正解。 [p.88 参照]

9) 「～すると必ず…する」は、「…することなしには決して～しない [できない]」という‘二重否定’で表せることに注意。‘never [cannot] ~ without …ing’ がすぐ思い浮かぶはずだ。したがって、never [cannot] と without が正解。 [p.99 参照]

[見本] 本科 標準国公私大コース 英語 添削問題編

XENB7A-Z1A2-00

指示に従って設問に答えよ。

(20点)

- (1) 次の日本語の意味を表すようにカッコ内の語句を並べ換えて全文を記せ。ただし、1語不足しているのを補うこと。また、文頭にくる語も小文字で示してある。(8点)

「そのショーは大成功だった。」

[far / was / being / the show / a failure].

- (2) 次の日本語を英訳せよ。(12点)

「確かにあなたのアイデアは素晴らしいけれど、それは非現実的 (impractical) です。」

4 XENB7A-21C2

3
4/8

(1)

① from (-0)

The show was not being far a failure.

① ト、V (-4)

① (-0)

- ① not far では「遠くない」の意味にはならない。
 ここでは、far from ~ (決して～ではない) を使う。
 後ろには名詞・動名詞 [ふたつあるので: being a failure] を
 続ける。

4
10/12

(2) ① Truly (-0)

① ト、V (-0)

✓ Your idea is truly great, but it is
_{① (-0)}
an impractical.

② ト、V (-1)

- ① この位置だと、truly は great にかわり、「とても素晴らしい」の
 意にならざる。truly を文頭に出して、Truly ~ but ...
 の形にし、「確かに～だけれども、…」という意を出すこと。
 ② impractical は形容詞なので冠詞は不要。

問題

指示に従って設問に答えよ。

(20点)

- (1) 次の日本語の意味を表すようにカッコ内の語句を並べ換えて全文を記せ。ただし、1語不足しているのを補うこと。また、文頭にくる語も小文字で示してある。(8点)
 「そのショーは大成功だった。」
 [far / was / being / the show / a failure].
- (2) 次の日本語を英訳せよ。(12点)
 「確かにあなたのアイデアは素晴らしいけれど、それは非現実的 (impractical) です。」

解答

- (1) The show was far from being a failure.
 (2) Indeed [Truly ; Certainly] your idea is great, but it is impractical.

解説

- (1) 「大成功だった」という日本語であるにもかかわらず、a failure (失敗) という表現が与えられている。そこで「失敗 どころではなかった」と読み換えて、**強い否定**を表す文にすればよいと考える。与えられた語句の中に far があるので、**far from ~ (決して~ない)** を用いるとよい。よって from を補って文を組み立てることになる。being a failure (失敗であること) という動名詞句を far from の後ろにもってきて文を完成させる。したがって、全文は The show was far from being a failure. となる。
- (2) 「確かに~けれど…」という日本語から、**Indeed [Truly ; Certainly] ~ , but … ; It is true (that) ~ , but … ; To be sure [No doubt ; Of course] ~ , but …** などの相関語句を用いることになる。これに「あなたのアイデアは素晴らしい (your idea is great)」と「それは非現実的です (it is impractical)」を組み込めばよい。